



クマから命を守るために

～クマ被害防止教室～



11月21日（金）、講師に一関市役所藤沢支所の金野光江さんをお招きして「クマ被害防止教室」を開催いたしました。報道等でもご存じの通り、今年は全国的にクマの出没、被害が大幅に増加しており、一関市内でも人身被害が発生しております。単に「音を立てて歩く」「冬になれば冬眠する」というような従来の常識が通用しないところもでてきていたため、クマに関するより最新の情報と対応の仕方について知る必要があると考え、以下の内容を全校で学びました。

1. クマの出没が大幅に増加している

藤沢地域において、10年前は年間に3件程度だったが今年はすでに24件出没の報告あり。（この日の朝にも黄海に出没との知らせがあり、25件になりました。）



2. クマの生態について

体長100~150cm 体高50~70cm

3~5cmほどの鋭く丈夫な爪を持っている。爪だけで木に登ることができる。

（右図参照）

活動時間 朝と夕方の薄暗い時間に活発に活動

春…冬眠から覚め、山菜やタケノコを食べる。

夏…子グマは母クマから離れ、それぞれ野イチゴや昆虫を食べる。

秋…冬眠に備え、どんぐりやヤマブドウを食べる

冬…冬眠する

→本来は左記の通りだが、ここが今、人里に下ってきて人間の食べ物を食べたいして、従来と異なる状況がある。また冬眠しないクマが増加するという予測も！

3. 実際の対応について

あくまで基本は「**クマに出会わないようにすること**」

そのために…

- ・暗くなる前に家に帰る
- ・クマ鈴を鳴らす

- ・音を立てながら大勢で帰る
- ・空のペットボトルを鳴らす（大きな音が出ます）

それでも、クマに遭ってしまったら

- ・目を離さずゆっくり後ずさる
- ・（攻撃してきたら）体を丸め、顔と首を守る

→クマは威嚇や攻撃をするとき立ち上ることが多いため、顔面や頭部がねらわれる！重症化を防ぐため、姿勢を低くして顔や首を守る！



本校でもすでに藤沢支所との連携により、クマが出没した際は情報を流したり、場合によってはお子さんの送迎をお願いしたりするなどの対応をしておりますが、今後もこのような状況は続くと思われます。引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

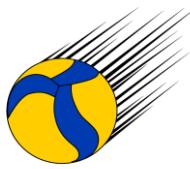
またクマの出没情報を含め、火災・救助などの災害発生情報や防犯・消費者保護のための情報を配信する「**いちのせきメール**」を受信できるようメールの登録や専用アプリのダウンロードをお勧めしています。（登録方法など詳しくは「一関市消防本部」のホームページをご覧ください。）



↑先日、藤沢町内で撮影されたばかりのクマ

文化の秋・スポーツの秋～各種大会・コンクールの結果～

冬の足音が聞こえ、初雪も降りましたが、藤中生の活躍は続いています。仲間の活躍を励みに、生徒たちがさらに文化活動やスポーツに意欲を持って取り組んでいくことを期待しています。

青少年読書感想文岩手県コンクール	岩手県教育委員会教育長賞	渡部 愛莉
全国中学生人権作文コンテスト岩手県大会	奨励賞（県連会長賞）	小野寺桜菜
歯科保健図画・ポスターコンクール	金賞 佐々木 蓮 銀賞 千葉 遥陽 銀賞 高橋 莉穂 銅賞 菊地 珞織 銅賞 三浦 篤人	岩手県中学校新人大会 バレーボール競技 (男子) いわいクラブファイターズ 1回戦 対 和賀東 0-2 惜敗
一関市交通安全ポスターコンクール	優秀賞 千葉 直樹 優秀賞 小野寺桜菜 佳作 高橋 莉穂	 (女子) BLAISE 一関 1回戦 対 軽米 0-2 惜敗
地域安全ポスターコンクール	金賞 高橋 莉穂 銀賞 菊地 珞織	
岩手県年金ポスターコンクール	優秀賞 遠藤 彩姫	
J.A共済児童生徒作品コンクール（交通安全ポスターの部）	金賞 橋本 涼香	
一関地方読書感想文コンクール	佳作 工藤 志穂 佳作 喜田 真子	

（敬称略）

進路について話しましょう

3年生はいよいよ高校入試を始め、希望進路実現に向けての取り組みが本格的になってきました。基本的には来月の期末面談で公立・私立の受験校を確定することになっています。また1・2年生についても進路希望調査を行います。学年を問わず、進路について親子での話し合いが必要な機会となります。



とはいって、親子の進路に関するコミュニケーションは、多くの家庭で悩みの種となっています。私（校長）自身、高3の子がいるのですが「子どもが進みたい道がわからない」「つい口出ししてしまう」という不安を抱えていますし、子どもから「親には相談しにくい」「否定されるのが怖い」といったことを聞いたこともあります（けっこう凹みますよね）。このような親子間のギャップをどう埋め、より良い進路相談を行うかが課題です。

多くの場合、子どもが「この道に進みたい」と話しても、親からの返答は相談ではなく「否定」として受け取られてしまうことがあるようです。「その高校（または職業）で本当に良いの？」「合格できるの？」といった質問は、子どものことを思う善意からの言葉であっても、子どもには「できない」「やめたほうが良い」といったメッセージに捉えられがちです。特に「その道は無理なんじゃない？」といった真正面での否定は大きな傷となり、相談しにくい雰囲気を作ってしまいます。

では、どうすれば良いのか…ぜひご家庭で心がけて頂きたいのは、「**まず子どもを受け入れる**」ことから始め、どんな進路でも「よく考えたね」とポジティブに受け止めることです。その上で、「その道に進む方法と一緒に考える」「どうすればその夢が達成できるのかを手助けする」というスタンスを取るのです。また、親自身が結論を押し付けるのではなく、子どもが自分で考えて結論を出せるようにサポートすることが重要です。こうした姿勢により、子どもが主体的な選択と努力をする下地が整います。

最も大切なのは、**進路を決める責任はあくまで子ども自身にあるという考え方**です。親が方向を決めてしまうと、後の失敗を親のせいにするようになります。逆に、自分で決めたことであれば、困難があった際にも自分の責任で向き合い、より強く成長することが可能です。親としては、進路を決して押し付けず、「**子ども自身の責任で考えられる**」環境を整える役割に徹しましょう。

お子さんとの進路に関する話し合いは難しいものですが、親と子が一緒になって「どうすれば可能にできるか」を模索する姿勢が深い信頼関係を生みます。ぜひこの機会に、親子でじっくりお子さんの進路について話し合ってみてください。